

フードバンク横浜 第8期(2023年度)事業報告書

(2023年4月1日~2024年3月31日)

2024年5月

特定非営利活動法人 フードバンク横浜

1. 総括：

円安に起因する諸物価高騰という経済環境悪化の中でも、当団体は既存の横浜市の困窮者支援各種事業を計画通りに的確に推進出来ました。

財務的な困難状態は続いたままであり、且つ各企業および個人からの食品寄付の量が減っていく中でも、当団体独自による幾度かの食品市場調達により(お米、カップ麺、お菓子などの購入)急場を凌いだりして、配給品を毎回一定量確保し続けました。混乱する世相の中で、既存の活動を質量ともに落とさず、維持して継続してゆくことの困難さと重要さを実感した1年でありました。

本年度より支援配給食料(水、飲料を含む)の重量を計測しましたが、本年度通期での総重量は約42トン(月平均3.5トン)となり、前期比約7%増えたこととなります。ただし、昨年暮れより寄付品在庫量が落ち始め、12月よりの量は約2.5トン止まりと品不足状況に陥りました。特に、レトルト品、缶詰、インスタント麺、お菓子の入荷が少なくなり、当団体が独自にスーパーにて買い付けせねばならぬ事態となりました。この現象は日本のフードバンク業界全体の共通問題になっておりますが、この品薄状況は今後暫く継続するものと予想しております。

配給品の重量計測は当団体の信用度維持のためにも今後も続けてゆきます。

当団体の主要な支援事業である”ひとり親支援”は、横浜市内4つの区で毎月それぞれ1回実施しておりますが、その支援対象世帯数は合計2160世帯となりました。各会場の1回あたりの平均対象数は45世帯となり、高い水準を維持しております。

関内駅近くで毎月末1回開催の街とも(ホームレス者)支援は計12回開催となり、その支援対象総数は1200人で1回あたりの平均は100人となり、年々増加の一途であり対応に苦慮するところでありました。この人数増加現象は、数ある地域の街とも支援活動の中において、当団体が対象者にいかに頼りにされているかを表すものであると言えますので、引き続き力を入れて継続する所存であります。

日立製作所開発のアプリを使ったフードロス削減マッチング事業である”フードステーション横浜”事業は、本年度中に実際運用に入ることを前期より目標にしておりましたが、経済状況悪化の影響を直接受けている提携候補各店舗の余裕が無くなっており、事業の推進と運用開始は先送りせざるを得ません。また、4年間運営をしてきた東戸塚地区での支援対象困窮家庭の子弟に対する教育事業である”みらい塾”は地区センターの会場が使用できなくなったことにより、2024年1月を以って終了となりました。

一方、本年度も新たな企業よりの寄付申し出および社内フードドライブ開催に関する共催提案は多数寄せられ、当団体が横浜という地域社会でSDGs推進の先駆的福祉団体として広く認知されていることが判りました。これら地域社会のフードロス削減のニーズには企業、団体、学校を問わず的確に対応をしました。この詳細は次々項3.に記述の通りであります。

寄付にて受領出来る食料が不足する中ではありますが、当団体に食品割譲を求めてくる小規模福祉団体へは食品・衣料提供(割譲)にて前年度同様に力強く支援を続けました。その対象団体は、グラマセパジャパン(東京代々木公園で街とも食料炊き出し支援を毎週行う米国人のグループ)、ナーラーヤナセヴァグループ(本部は横須賀市の困窮者支援グループ)およびAll Creative Marketグループ(フィリピンの地方貧困層を支援する日本人篤志家)の3団体です。

2. 財務状況について：

前期（第7期）の経常損益は300万円強の大きな赤字となり、当団体は財務危機に瀕している状況でしたが、本年度はその赤字が61.9万円と大きく改善しました。その要因は、寄付金・助成金による収益が前期比18%増えたこと、および倉庫賃貸料低減を柱とする経費節減により経費総額が6%減ったという2点であります。

賃貸倉庫は加瀬倉庫にて従来7部屋使っておりましたが、2023年11月よりは4部屋に減らし、第9期も4部屋体制で移行するので、経費増は抑えられる状況にあります。

助成金収入は民間案件では”かながわ生き生き基金”など3件で計77万円、国庫案件では農水省補助金2件計147万円でした。

本年度中の新規法人会員は1社、新規正会員は2名でした。本年度末の法人会員数は13社、正会員数は21人となっております。

財政的な危機は続いているので、第9期中には公的な専門家のアドバイスを受けながら、Fundraising手法を使ったりして抜本的な財務健全化策を講じることを予定しております。

3. 各事業の具体的成果：

(1) 定期活動成果：

① ひとり親世帯支援会：

横浜市中区、戸塚区、神奈川区、港南区の4つの会場で各区毎月1回定期開催
開催数総計：48回、支援対象総数：2160世帯

② フードドライブ開催：

戸塚Modi内、東戸塚そごう西武内、桜木町の”ホテルエディット横濱”内の3ヶ所で当団体主催として毎月各1回定期開催 開催数総計：36回

③ マルエツ店舗内フードドライブ品の回収：

毎月横浜市内のマルエツ店12店舗を回り、店内フードドライブ品を回収して倉庫入庫手間は掛かっていますが、食品入庫が減ってゆく中で当団体の食品回収の中核となっていて、その量も増え続けております。マルエツ本部と協議後、来期中には更に横浜市内4店舗が加わることとなります。

④ 関内駅マリナード地下街入口での街とも支援会：

毎月末に1回定期開催 開催数総計：12回 支援対象総数：1200人(平均100人/回)

(2) 不定期開催の活動成果（時間順に記載）：

4月 横浜武道館にて横浜エクセレンス(プロバスケットチーム)の公式試合時にフードドライブを共催にて実施 *横浜武道館にては10月~2月の間に合計12回のフードドライブを実施

5月 明治学院大の戸塚キャンパスでの学園祭(戸塚まつり)にて学生有志がフードドライブを実施 援助した

6月 日本KFCホールディングスが入居ビル1階でフードドライブを実施、これに共催の形で参加
横浜港開港祭でのライオンズクラブ主催のフードドライブに共催として参加
横浜駅でCIAL 横浜主催のフードドライブへ手伝い参加
消費者庁フードロス削減サポーター募集にて当団体より7名が認定証を取得

10月 フードステーション事業(食品ロス削減マッチングアプリ)運営事業にてQRコードが完成

11月 県立中央農業高校文化祭にて同校農業クラブ本部がフードドライブを実施、数名が応援参加
*本フードドライブで258点の寄付と募金が集まり、すべて当団体に寄付される

12月 横浜市立幸ヶ谷小学校3年3組のフードドライブ実施 *段ボール2箱分を当団体が寄付 受領

12月下旬 ひとり親支援会の4会場でクリスマスケーキをひとり親世帯に配給、みらい塾の児童にも配給 *本ケーキの提供は当団体法人会員のシーバイエス株式会社による。

2024年3月 株式会社横浜赤レンガ社よりのお米の寄付の授与式を中区ひとり親支援会場にて実施
*同社は、11月~12月開催の赤レンガ倉庫地区でのクリスマスマーケットイベントにてオリジナルマグカップを販売し、1個あたり10円をひとり親世帯へのお米代金として当団体に寄付。この寄付により当団体は180世帯分のお米を購入できた

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校にて講演を実施 当団体による講師は3人
*本講演のテーマは”SDGs 成立の歴史 “ ” フードバンク横浜が目指すもの “
“学生ボランティアが困窮者支援活動に参加する意義” の3題 3年連続での講演実施

子ども家庭庁より600キロの寄付米の入庫
農水省穀物課より政府備蓄米450キロの入庫
当団体によるYahoo 募金の応募累計が2363人、寄付額計122万円になる

(3) 本年度中に当団体へご寄付頂いた企業・団体・学校名(敬称略)：

日本KFCホールディングス、日本ピザハット、エバラ食品工業、キヨーエーメック、横浜サンセット21ライオンズクラブ、エフエムジー&ミッション、マルエツ、エクサ、ジョンソン、IKEYA港北店、そごう西武東戸塚S.C.、戸塚モディ、ファンケル、有隣堂、シーバイエス、横浜冷凍、シーバイエス、味の素冷凍食品、横浜ステーションビル、ローム、テラビッツ、中華街山東、中華街ちーさん家のマーラカオ、ホテルエディット横浜、オイシックス・ラ・大地、横浜エクセレンス、西松建設、ブルミッシュ、和光商事、デロイトトーマツ、横浜赤レンガ、フードバンクかながわ、県立中央農業高校、明治学院大学、横浜市立幸ヶ谷小学校、横浜市資源循環局、横浜市神奈川区地域振興課。